

国の交付金を活用した事業展開①（制度概要）

平成 27 年度交付金事業

地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）

【目的】

まち・ひと・しごと創生法に基づき、総合戦略の円滑な策定とこれに関する優良施策の実施を支援することを目的とする。

【予算総額】

72,082 千円（うち交付金分：71,960 千円）

【事業展開】

- 豊浦町総合戦略策定事業
- 移住定住促進事業
- 農用地有効利用と農地担い手の確保・育成と新たな農産物のブランド化推進事業、
- 地域・民間を主体とした、新たな地域事業の実施を想定した自立的な産業連携組織の形成事業
- 洞爺湖有珠山ジオパーク資源を活用したDMO観光地域づくり連携事業
(※洞爺湖町を代表とする壮瞥町、豊浦町との連携事業)

連動

連動

平成 28 年度交付金事業

地方創生加速化交付金

【目的】

まち・ひと・しごと創生法に基づき策定した総合戦略に位置付けられた先駆性のある取組の円滑な実施を支援することを目的とする。

【予算総額】

82,401 千円（うち交付金分：80,000 千円）

【事業展開】

- 西いぶり「生涯活躍のまち」構想推進事業
(室蘭市を代表とする登別市、伊達市、壮瞥町、洞爺湖町、豊浦町との連携事業)
- 西いぶりクラウドファンディング販路拡大事業
(室蘭市を代表とする登別市、伊達市、壮瞥町、洞爺湖町、豊浦町との連携事業)
- 豊浦町総活躍社会の実現に向けた地域産業連携の環境整備事業
- 洞爺湖有珠山ジオパーク資源を活用した観光地づくり事業
(洞爺湖町を代表とする伊達市、壮瞥町、豊浦町との連携事業)

国の交付金を活用した事業展開②（農業関連事業）

平成 27 年度交付金事業

農用地有効利用と農地担い手の確保・育成と新たな農産物のブランド化推進事業

<取組実績>

- 新規就農希望者招致事業
東京や札幌で開催される新規就農相談会等に参加し、新規就農の受け入れ相談、情報提供を実施。
- 新規就農者等招致育成事業
新規就農者に対し、円滑な就農を推進するため、初期投資資金、支援受入農家助成、家賃・固定資産税・農地賃貸借等に係る助成を実施。
- ベリー栽培試験研究事業
いちご（ベリー）のまちとして発展をするために、ベリータウン構想を検討。ストロベリー以外のブルーベリーやブラックベリーなどの作付、加工、販売するための先行事業として試験栽培等を実施。
- 婚活交流事業
安定した経営と持続性の高い産業振興を図るために、産業後継者の出会いの場を作り出す婚活交流を実施。

地域・民間を主体とした、新たな地域事業の実施を想定した自立的な産業連携組織の形成事業

<取組実績>

- 地域産業連携組織形成事業
町内の一地域を対象に、今後の地域事業の展開について議論するための「豊浦地域産業連携協議会」を設立し、新規就農者受入れに向けた課題及び解決策について検討。

重要業績指標（KPI）：新規就農相談中の案件 10 件（H28.3） **結果 33 件**
（※上記、2 事業ともに、同じ KPI を設定）

要因：新規就農相談として直接面談した件数を結果数値とした。
結果数値については、ホームページや新規就農に関する各種イベントに参加して豊浦町独自支援制度の PR を実施したことが具体的な相談へとつながっている。
今後、相談から就農へつなげる重要なポイントは、研修センター機能を持った拠点を整備し地域全体で就農をサポートとする体制づくり及び販路確保支援などの就農した後までの具体的な支援を強化することである。

平成 28 年度交付金事業

豊浦町総活躍社会の実現に向けた地域産業連携の環境整備事業

<取組内容>

- 新規就農支援に向けた取組
農業者だけではなく、漁業者や自治会、企業や移住者を含めた「地域産業連携協議会」による新規就農者支援体制の協議検討や、「廃校を活用した地域産業連携拠点整備」「新規就農者等に対する各種助成」の施策に取り組む。
- 稼げる農業への改革の取組
北海道で唯一の“いちご”の地域団体商標「豊浦いちご」を始めとする「豊浦ブランド」を活用した農産物の高品質化を図るとともに、見切り品の活用や加工品の展開など、更なる高付加価値化を目指した 6 次産業化に取り組む。
- 農業アドバイザーによる支援
豊浦町農業の抱える課題の解決に向けた取組みを進めるため、豊浦町と連携協定を締結している株式会社マイファームを農業アドバイザーとし、マイファームの豊富な実績やネットワークを活用して、上記の取組みについて支援を行う。
また、マイファームが都市部で展開する農業大学の生徒を農業体験ツアーなどを通して豊浦町へ呼び込むことにより、新しい人の流れを創り出し、上記の取組みと合わせて農業者を始めとした移住・定住者の増加を図る。

重要業績指標（KPI）：新規就農相談中の案件 30 人／年（H29.3）
農業出荷額 62,000 千円／5 年
（いちご、ベリー類、加工品含む）

国の交付金を活用した事業展開③（観光関連事業）

※洞爺湖町を代表とする西いぶりの自治体との連携事業
※下記内容は豊浦町の取組内容について記載

平成 27 年度交付金事業

洞爺湖有珠山ジオパーク資源を活用したDMO観光地域づくり連携事業

<取組実績>

●DMO機能整備事業

DMOの来年度以降の組織化に向け、町内にある観光資源の整備、関係団体だけでなく移住者など広く地域の有志を巻き込んだ新たな滞在型交流プログラムの造成やモニタリングにより、全町民のコンセンサス醸成と町外に向け豊浦町のやる気、魅力を発信。

●情報発信ツール整備事業

豊浦町の持つ歴史や文化、自然、人を織り交ぜて、新たに造成された滞在型交流プログラムに、小幌駅やキャンプ場、飲食店などの魅力的な観光情報で構成されたホームページやパンフレット、ポスターを日本語版・英語版の2パターンで作成。

●DMO独自事業整備事業

冬期の新たな観光の目玉として、北海道では取り組み事例の見られない「手ぶらでキャンプ」に取り組むため、テントやシュラフなどの機材の借り受けを実施。

重要業績指標（KPI）：豊浦町冬季観光客入込数3万人（H28.3）**結果3.3万人**

要因：滞在型交流プログラムが取り組まれた平成28年2月～3月を対象期間とし、天候により大きく集客数が変動するまると豊浦北の収穫祭、及び維持改修工事のため休館中の天然豊浦温泉しおさいの2月分の観光入込客数を除外して結果数値とした。滞在型交流プログラムの参加者が、道の駅とよらなどにも立ち寄りした結果が入込客数の増加の一因と捉えている。今後も、天然豊浦温泉しおさいなどの観光施設と滞在型交流プログラムを組み合わせた事業展開により、さらなる入込客数の増加を図っていく。

重要業績指標（KPI）：冬季体験メニューなどの体験プログラム数15（携わる町民数30人）（H28.3）

結果：体験プログラム数8、町民数40人

要因：今冬期に実施の滞在型交流プログラムは、ワークショップにおける町民からの提案を基に造成しており、提案数では15プログラムを超えたものの、積雪等の影響や各体験プログラムを担うガイド役の町民の不足などの理由から、目的とした指標の半分の結果となった。一方、携わる町民数については、実施回数を重ねるごとに協力を申し出る町民の増加により上回る結果となった。今後はプログラム化できなかった提案をできるだけプログラム化できるよう関係団体の協力のもと町民に働きかけを行いたい。

平成 28 年度交付金事業

洞爺湖有珠山ジオパーク資源を活用した観光地づくり事業～奇跡の湖「洞爺湖」のある唯一無二の観光地の創造～

<取組内容>

●豊浦町型DMOのあり方検討事業

町内の関係団体や移住者、また、町外の有識者等で構成される協議会により、豊浦町が観光振興を通じて目指すべき姿や今後の観光地づくりの方向性、その中核となる豊浦町型DMOのあり方について検討し、合意形成を図る。

●人材育成事業

日本版DMOに欠かせないコーディネーターやマーケター、また、ガイドなど専門スキルを身に付けるためのセミナーや研修、先進地視察等を実施し、観光人材の育成を図る。

●DMO機能整備事業

夏期に実施可能な豊浦町ならではの滞在型交流プログラムを造成するため、モニタリング等を実施する。また、観光庁の日本版DMO候補法人の登録時に必要な観光客の顧客満足度や観光による域内消費額などの調査や分析を実施する。

●情報発信事業

本事業の進捗状況を新聞等を活用して町内外へ広く周知・発信する。また、秘境小幌駅周辺など町内の魅力を動画集にするほか、町に縁のある円空に係るフォーラムを開催し、町内への集客を図る。

●観光地整備事業

秘境小幌駅から小幌洞窟に通じる観音道のロープなどの安全対策を景観や自然への負荷を考慮の上、実施する。また、礼文華～大岸間（道道608号線）におけるサイクルツーリズムの可能性を検証する。

●インバウンド受入体制整備事業

好調なインバウンド観光による消費効果を小売店や飲食店などに広げるため、金融機関等と連携を図り、カード決済のための端末機を導入し検証を図る。

重要業績指標（KPI）：観光入込数3千人の増（H29.3）

国の交付金を活用した事業展開④（単年度事業）

平成 27 年度交付金事業

◎豊浦町総合戦略策定事業（※KPIの設定はなし）

<取組実績>

- 平成 27 年 6 月に豊浦町総合戦略策定会議を設置し、7 回の議論を経て、平成 27 年 10 月に総合戦略を策定した。

<今後の取組>

- 豊浦町総合戦略を推進する。

◎移住定住促進事業

<取組実績>

- 町内の空き家について実態調査をし、適切に管理されている空き家を空き家バンクに登録していただき、移住者の住宅を確保する取組を実施した。
(調査結果：空き家件数 149 件、適切に管理されている空き家数 60 件、空き家バンク登録件数 3 件)
- 移住コンシェルジュを配置し、移住希望者に豊浦町の魅力を伝え、移住につなげる取組を実施した。
- 移住 PR 用のパンフレットを作成した。

<今後の取組>

- 移住コンシェルジュを中心に、地方への移住希望者に豊浦町を選んでいただけるよう、豊浦町の PR を実施するとともに、豊浦町への移住希望者に対しては、空き家バンクの活用など、移住支援を実施する。

重要業績指標（KPI）：移住について具体的な相談に入っている者数 2 人（H28.3） **結果 9 人**

要因：空き家バンクの町外からの利用申込者数を結果数値とした。また、「ちょっと暮らし体験事業」の問合せや利用状況からも豊浦町への関心はうかがえる。今後、移住へつなげるポイントは希望する地区における住宅の提供であり、空き家バンクの登録物件を増やすことが重要である。

平成 28 年度交付金事業

◎西いぶり「生涯活躍のまち」構想推進事業（室蘭市を代表とする登別市、伊達市、壮瞥町、洞爺湖町、豊浦町との連携事業）

<取組内容>

- 西いぶり「生涯活躍のまち」構想推進協議会（H28.5.30 発足）に参画し構想を策定するとともに、構想の周知啓発等を図る。

重要業績指標（KPI）：西いぶり「生涯活躍のまち」構想の策定（H29.3）

◎西いぶりクラウドファンディング販路拡大事業（室蘭市を代表とする登別市、伊達市、壮瞥町、洞爺湖町、豊浦町との連携事業）

<取組内容>

- 西いぶり CF 推進運営協議会協議会に参画し、CF に関する講習会を地域の企業等を対象に開催し、活用に向けた理解促進・意識啓発等を図る。

重要業績指標（KPI）：6 市町全体のファンド組成件数 6 件（H29.3）